

# 2013年タコ

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	数 量					価 格					輸 入 国							
	漁獲	産地	輸入	東京	消費支出 生(万円)	在庫	産地	輸入	東京	消費支出 生(円)	モロ ッコ	モーリ タニア	セネ ガル	タ イ	スベ イン	ベト ナム	中 国	メキ シコ
24	33.6	4.0	47.1	8.6	583	13.6	481	755	936	1,148	6.5	21.4	2.2	1.2	2.9	3.6	7.7	0.4
25	35.0	4.2	58.4	11.4	789	16.9	481	601	706	1,397	19.8	23.8	0.9	0.9	0.7	3.9	7.0	0.4
%	104	106	124	132	135	124	100	80	75	122	302	111	42	75	24	109	91	85

## 輸 入 の 動 向

25年の輸入量は5.8万トンで前年（4.7万トン）をかなり上回った。これは主力の西アフリカ物（モーリタニア、モロッコ）の増加を反映したものである。

## 本年の西アフリカでの冬漁

モロッコでの冬ダコの漁期は前年の11/16～3/30までで、その漁獲枠が42,525トンで前年（2.1万トン）の倍増となった。その配分は、船凍26,791トン（前年：13,230トン）、氷蔵船4,677トン（前年：2,310トン）、ダクラ陸凍壺11,057トン（前年：5,460トン）であった。冬ダコ漁が前年とは違って好調でトロールの北部漁場1トン（アソート6,7番主体）、南部漁場が0.8-2トン（3,4,5番主体）、ツボは当初好調で前年を大きく上回る漁で後半は並み漁となったがサイズは前年同様大型（2,3,4番）主体のアソートで、本年も成長が早く試験操業の大型組成で始まった。しかしサイズ問題もあり日本向けのものは依然少なかった。船凍は、サイズ問題もあったものの1次航海、2次航海とも小型中心に好漁であった。

夏ダコ漁は、前年同様6月5日の解禁で8月10日までの期間であった。漁獲枠は10,000トン（前年：5,500トン、前々年：7,000トン、3年前：10,000トン）で内船凍6,300トン、氷蔵船1,100トン、ダクラ陸凍壺2,600トンであった。漁は、壺漁が当初から枠の消化が進み安定した漁が続いた。サイズは5番主体に2,3,4番が95%と大半であった。トロールは、1日0.2～0.7トンで、良い漁とは言えなかったが、サイズはツボ同様5番以上が95%であった。

モーリタニアの冬ダコ漁は前年同様、前年の11月16日に壺が解禁（漁期：5月15日まで）で前年をやや下回ったが、一昨年をやや上回る程度の漁となった。サイズアソートは4,5番主体に3番,6番混じりで大型主体であった。

船凍や氷蔵船のトロール漁も前年の12月1日から4月末まで漁が続いた。漁況は1日1トンを割りこんでおりやや低調だった。サイズアソートは6,7,8番主体であった。

夏タコ漁は壺漁が前年より1日遅い6月16日解禁10月15日まで。トロール船凍と氷蔵船は5,6月の2ヶ月の休漁で、7月1日解禁で9月30日までであった。

壺漁が前年（100トン程度）に比べると少し落ち気味の漁獲をみた。アソートは当初4,5,6番主体で8月に入ってから7番が出始めた。トロールは1日1トン前後でやや好漁で、サイズは小型主体であった。

今年はモロッコの冬タコ、夏ダコ漁が好漁になり、モーリタニアも極端に悪い漁にはならず、前年並みを維持した。こうした現地での漁模様もあって、国内搬入は前年をかなり上回り、価格の下落が顕著であった。また、サイズの的にはモロッコ主体に大型も多かったがそれなりに消化され、その結果、輸入価格、消費地価格とも前年をやや下回った。

輸入国は、昨年が続いてモーリタニアが41%で最も多かったが、前年（45%）を下回り、モロッコ、34%（前年：14%）でモロッコの増加が目立った。中国が12%で前年（16%）を下回った。続いて、ベトナム、セネガル、タイ、スペインとなっている。メキシコも原魚の高騰もあり、大半はEUに流れ、昨年同様本年も日本への搬入は少なく前年並みであった。

輸入価格は、601円と周年安値推移だったことを反映し、前年（755円）を下回った。

また西アフリカ沖合での漁の不振が続いていたことも近年もマダコ、ミズダコ、ヤナギタコ等、国内のタコ類の供給がみられているが、国内産タコ類も海外産の安値の中で3つのタコ類も軟調な価格推移となった。

## 在 庫 量

本年の平均在庫量は、1.7万トンと前年（1.4万トン）をかなり上回った。

越年在庫は1.6万トンで前年（1.4万トン）をかなり上回った。周年を通じて西アフリカ沖からの搬入増加を受けて近年では高水準の越年在庫となった。

## 消費地入荷量と価格

25年の東京の入荷量は、1.1万トンで輸入量の増加を反映し、前年（0.9万トン）をかなり上回り、消費地での取扱いも引き続き増加した。

本年も末端マーケットでは特に上半期から特売（200円割れ）も多くなり、スーパーの棚に占める割合も多くなり、周年続き消化には結びついた。

家庭消費支出は、末端単価が安くなったこともあって数量、金額ともかなり伸びた。

東京の価格は、706円で前年（936円）をかなり下回り、本年もほぼ輸入価格の下落を反映した格好となった。